

| | | | | |
|---|---|---------|----|------|
| 科目名 | 国際経済と経営環境 Business in Global Economy | | 選択 | 2 単位 |
| 学期・曜日・時限 | 春・火・3 限 | 春・火・6 限 | - | - |
| 担当教員名 | 里見 泰啓 | e-mail | | |
| 講義形式 | ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施します） ※対面履修生は全回講義室から参加 | | | |
| <p><講義の概要と目的></p> <p>経済のグローバル化が進展し、各国経済の相互依存が深まっている。そのためマクロ経済、また個々の事業活動も世界経済の影響を受けるようになった。</p> <p>この講義では、国際経済学の考え方を紹介するとともに、グローバル経済のもとでの金融、企業活動の潮流、個別企業の対応を考えていく。</p> <p><到達目標></p> <p>国際経済のフレームワークの理解、グローバル経済の下での企業経営、事業運営についての着眼点を持つこと。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>第 14 回と第 15 回授業に受講生のレポートをもとに討議する。</p> | | | | |
| <p><講義計画></p> <p>1 回目： グローバル経済時代の日本経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：グローバル経済の進展と日本経済への影響を概観し国際経済のフレームワークをみる。 <p>2 回目： 国際貿易の基礎①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：貿易取引と経済発展の関係を解説する。 <p>3 回目： 国際貿易の基礎②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：基礎的な国際貿易理論を解説する。 <p>4 回目： 国際金融論の基礎①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：国際資金移動と経済発展の関係を解説する。 <p>5 回目： 国際金融論の基礎②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：基礎的な国際金融理論を解説する。 <p>6 回目： 国際マクロ経済学の基礎①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：マクロ経済政策の海外経済への影響を解説する。 <p>7 回目： 国際マクロ経済学の基礎②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：基礎的な国際金融理論を解説する。 <p>8 回目： 国際間要素移動のメカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：資本、労働の国際間移動が各国経済に与える影響を解説する。 <p>9 回目： 中間まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：8 回目までの内容を要約し、小テストを行う。 <p>10 回目： 雁行形態の経済発展と生産・貿易パターンの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：新興工業国の経済発展を題材に海外直接投資、貿易パターンの変化を考える。 <p>11 回目： 国際分業の進展と貿易構造の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：東アジアにおける国際分業の進展と貿易構造の変化の様相を探る。 | | | | |

12 回目：日本企業の海外展開①

- ・要点：日本企業の海外進出を大企業の事例を中心に考えていく。

13 回目：日本企業の海外展開②

- ・要点：日本の中堅・中小企業の経済のグローバル化への対応を考えていく。

14 回目：グローバル経済の下での事業戦略①

- ・要点：受講生のレポートをもとに、グローバル経済下での事業戦略について討議する。

15 回目：グローバル経済の下での事業戦略②

- ・要点：受講生のレポートをもとに、グローバル経済下での事業戦略について討議する。

<講義の進め方>

- ・講義は、Teams 等に掲載する講義資料を中心に進める。
- ・小レポートをもとに受講生とのディスカッションを重視する回がある。また、小テストを実施する予定である。
- ・受講生の興味、理解に応じて、若干、講義計画を変更する場合がある。

<事前事後学修内容>

講義ノートを中心に必要に応じて参考文献を用いて予習・復習をする。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。

<教科書及び教材>

教科書は特に指定しない。講義ノートを配布する。

<参考書>

伊藤元重『ゼミナール国際経済入門 改訂 3 版』日本経済新聞社

クルーグマン・オブストフェルド・メリッツ『クルーグマン国際経済学 理論と政策 上・貿易編』丸善出版

クルーグマン・オブストフェルド・メリッツ『クルーグマン国際経済学 理論と政策 下・金融編』丸善出版

若杉隆平『国際経済学 第 3 版』岩波書店

など。その他は適宜、講義のなかで提示する。

<成績評価方法>

欠席 6 回以上は成績評価しない。

小テスト 50%、レポート 50%で評価する

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

Teams 等にて全体に対するフィードバックを行う。

<履修条件> 特になし。

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー> 火曜 5 限

<その他>

講義資料、参考文献の他、国際経済への関心に応じて文献などを参照してもよい。